

「利用者300万人達成記念事業

目指せ日本一の山！～宮城の子どもたちの富士山登山～

1. 趣 旨

宮城県内の小・中学生が富士山登頂をめざし、仲間と助け合いながら苦難を乗り越えることで成就感を味わうとともに、次代を担うリーダーの育成を図る。

2. 事業の概要

(1) 期日

〔事前研修会〕 平成28年 6月18日(土)、7月3日(日) ※どちらか1日参加

〔富士山登山〕 平成28年 7月25日(月)～28日(木)〔3泊4日〕

〔事後研修会〕 平成28年 9月 3日(土)

〔活動報告会〕 平成28年10月23日(日)

(2) 参加者

①参加対象及び人数

宮城県内の小学校6年生、中学校1・2年生 24名

※事前事後研修会と活動報告会すべてに参加できる方

②参加状況

学年	男子	女子	合計
小学校5年生	1	1	2
小学校6年生	9	4	13
中学校1年生	2	2	4
中学校2年生	0	1	1
合計	12	8	20

3. 企画運営のポイント

①富士山登山をメインプログラムとし、その前後の研修会及び活動報告の場を設け、登頂することの達成感を得て完了とするのではなく、体験したことやその過程を自分でも蓄積し、他者にも伝えられる機会を設けた。

②高山病等が懸念されることから、下山する参加者がした場合の体制についても複数の状況を想定した。スタッフの数も限られているため、最終判断としては山頂を目指すことよりも安全に全員が富士山登山に挑戦し、活動を終了することに主眼をおいて運営した。

③荒天時に富士山に登れなかった場合も、1合目～5合目を歩くといった、なるべく富士山にこだわった荒天時プログラムとした。

4. 日程

〔事前研修会〕 平成28年 6月18日(土)、7月3日(日) ※どちらか1日参加

6月18日(土)	栗原市役所等→いわかがみ平→栗駒山登山→下山後みちのく伝創館にて説明会
7月 3日(日)	

〔富士山登山〕 平成28年 7月25日(月)～28日(木) 3泊4日

	行程	宿泊場所
7月25日(月)	栗原市役所→国立中央青少年交流の家へバスで移動	国立中央青少年交流の家 (静岡県御殿場市)
7月26日(火)	国立中央青少年交流の家からバスで移動→須走口5合目から登山開始	富士山山小屋 7合目「見晴館」

7月27日(水)	7合目「見晴館」→山頂→下山→国立中央青少年交流の家へバスで移動	国立中央青少年交流の家
7月28日(木)	国立中央青少年交流の家→栗原市役所にバスで移動	

〔事後研修会〕平成28年 9月 3日(土)

9月 3日(土)	花山自然の家にて班ごとで感想文発表、成果物の作成等(仙台、古川、栗原からバスで送迎)	
----------	--	--

〔活動報告会〕平成28年10月23日(日)

10月23日(日)	利用者300万人達成記念式典及び報告会出席(代表者4名が発表)、交替で展示ブース対応	
-----------	--	--

5. 主な活動内容



雲海を眺めながら山頂へ



事後研修会で成果物の作成



フェスティバル来場者の前で発表

6. 成果と課題

(1) 参加者アンケート結果

満足：75.0% やや満足：20.0% やや不満：0% 不満5.0%

(2) 参加者の声

- ・すごくつらかったけど自分の体と心が強くなった気がする！すごく楽しかった。
- ・富士山登山で、あきらめない大切さを知ることができてよかった。
- ・山頂についてとてもうれしかったからあきらめなくてよかったと思った。

(3) 成果

- ①全4回の参加を原則として募集し、回を重ねるごとに欠席する参加者が増えるのではと懸念していたが、学校行事等やむをえない欠席者が各回1～2名程度でほとんどの参加者が全日程に参加した。また欠席者も成果物は提出し、全ての参加者が主体的に全日程に取り組むことができた。それについては、日本一の山である富士山に登ること自体が、参加者にとって大きな刺激となったため、参加者が主体的に最後まで取り組むに至ったと捉えられる。
- ②本事業の趣旨やスタッフの共通事項として、当初から山頂を目指すことだけでなく、とにかく安全に全員が富士山登山に挑戦することを主目的としたため、高山病等で山頂まで行けなかった参加者も、事後研修会、活動報告会まで参加することに意味を見出すことができる事業展開になった。

(4) 課題

他県での事業実施ということで、実地踏査の日程も限られており、富士山登山経験者も少ないため、安全管理を徹底するための体制づくりが難しかった。そのため、本事業ではスタッフとして登山ガイドを委託したが、ペース配分等全てガイドに任せたことで、富士山登山という活動において担当者が伝えたいことが中途半端になってしまった。企画段階で体制についても想定する必要がある。

担当：企画指導専門職 島貫 織江